

5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5



特別
5
4977
1

湯山吟



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



賊何人連歎

賊何大連秋

薄言小本乃藝

色山遊る宵柏

岩まゝのすまき

矢や軽女じ家長

松虫ししはし連

地や首出る家祇

之秋事しそあさ

うらわら風霜柏

露うけり月色

元らやかたん長

舟り心念たしな

野邊のしと忠義

玉の梅もさる物

友や梅もさる物

はるかにあはれ

うらやまをうけ

あやしむるも

友々梅
志乃
池
志乃
池
志乃
池

うろたへたり

あやし花

身と

あやし

有御

まじり

世

い

た

と

人

名

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

林乃秋色かき尚
海々々々明々々々
木々々々々々々々々
子々々々々々々々々
たの々々々々々々々
之々々々々々々々々
す々々々々々々々々
か々々々々々々々々
た々々々々々々々々
わ々々々々々々々々
見々々々々々々々々
泉々々々々々々々々
そ々々々々々々々々
蜜々々々々々々々々
夜々々々々々々々々
主々々々々々々々々
枕々々々々々々々々
あ々々々々々々々々

初んてりるに家
枕の金志るに
し我のるに
あしこのをこ女色
藤らり色多
共らるる事おは是長
伴てり見もり
あとの山寺寂
鹿乃多と流打り
若年れり年善肖相
野分咲日
まらりのお多た
あ川はら鏡り
月らりる見るの氣
中いへく左路城
我はらしるも
人色無
あはれま
死は魚毛
あや春の夢相

花は雨色の中し
きよく夢の夢を
らたへし一箇し
物ぞおとすれば
のりもすむは
更なる身は
月と傳はる
の海はし
あはれねば
村と火と
すまは
くはら
郭なる
まはら
わたり

和歌の海を越へて
人々の心をなやませ給へ
末の世にたはれ給へ
病も治りてや癒ゆ
庭の木の葉も枯れ
秋の空は
赤い
山は
わが
心
を
なやませ給へ
和歌の海を越へて
人々の心をなやませ給へ
末の世にたはれ給へ
病も治りてや癒ゆ
庭の木の葉も枯れ
秋の空は
赤い
山は
わが
心
を
なやませ給へ

病色して大趣候と
庭木の秋の暮霜
の香がきく
霜とみどり川
福の夜半は人色
志と月十人々
わなわなと
かたしそと
大のじ車
程くそ世中
老くや人
身と海と
あかしの
くれ道か
書か
神の
時分
幸

花の
廿七日月
存
十

花をのり抱し
 廿七日月乃らぬ
 春さりに衣路色
 深心しと此身長
 夢は空の如く
 舟は川を流す
 海は人の心
 舟は人の心
 舟は人の心

海々の村を去る
人なり
かたしは
あまの浦に夕煙を
まき梅の香を
うきと志す
もりの葉は
や西氏
あまの浦に夕煙を
まき梅の香を
うきと志す

みり目も色年少も
すこひ遠くあり
夕の影を
山に雲を
うきと志す
あまの浦に夕煙を
まき梅の香を
うきと志す

松の葉は緑の葉
多しと云ふ人ありて
らせと云ふ人ありて
蓬生と云ふ人ありて
二乃と云ふ人ありて
海と云ふ人ありて
わつと云ふ人ありて
右平と云ふ人ありて
色と云ふ人ありて
志と云ふ人ありて
才と云ふ人ありて
頂と云ふ人ありて
人として云ふ人ありて
中として云ふ人ありて
わつと云ふ人ありて
開と云ふ人ありて
そと云ふ人ありて
十と云ふ人ありて

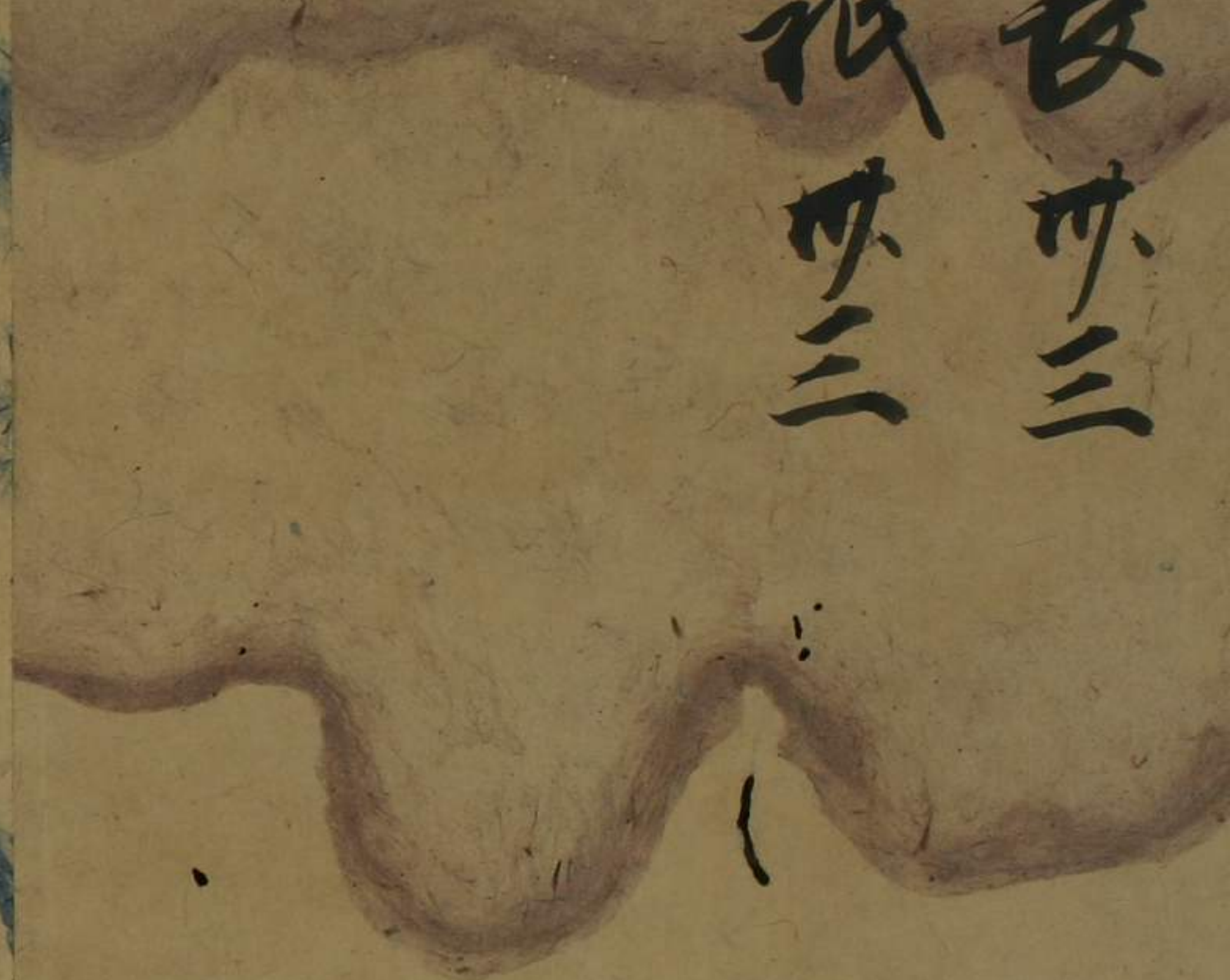
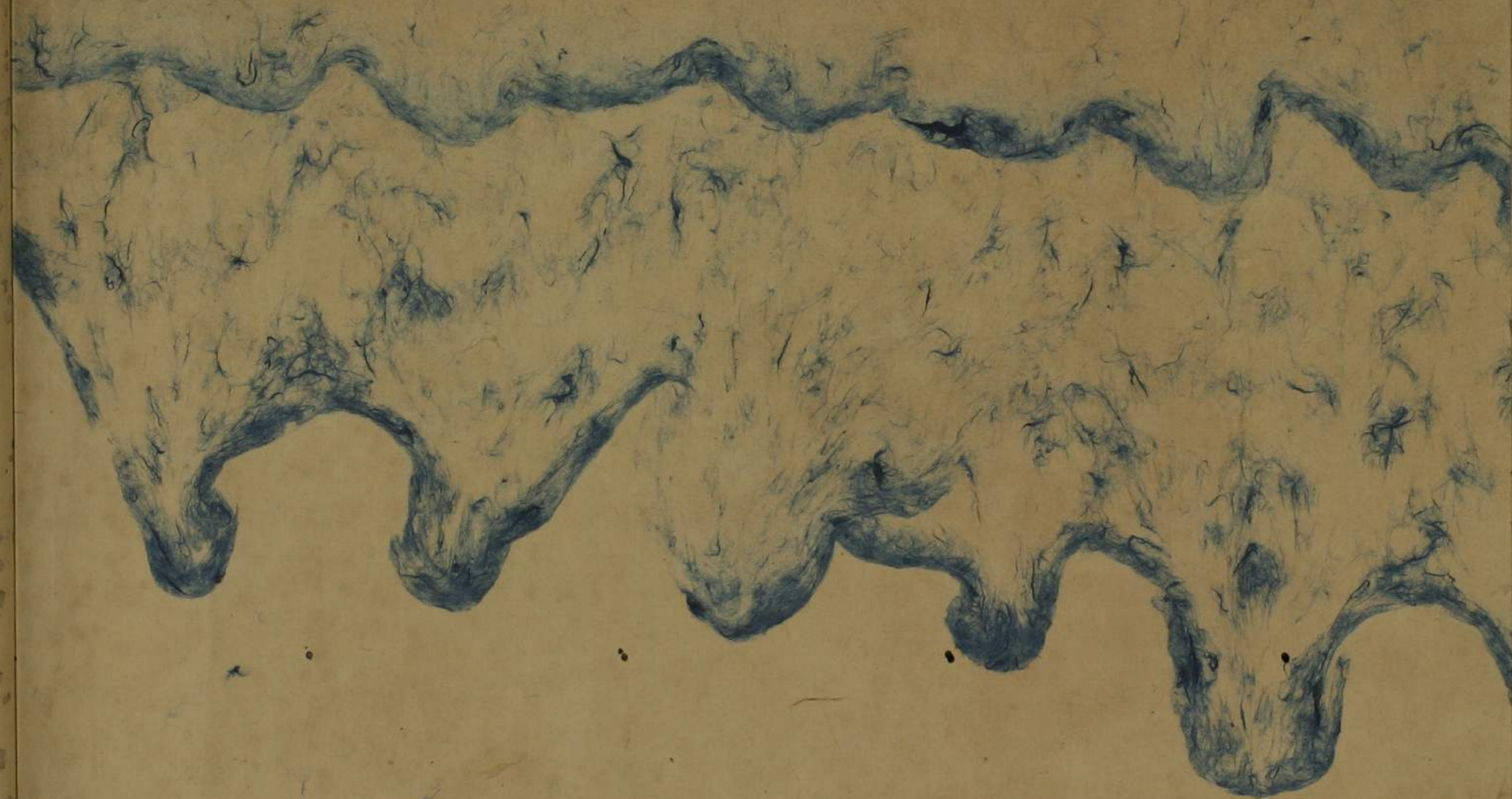
わりのやあそは
開のあまら義
そまふふこわ
おんくも後箱
ちりいふる路く
まふじまは箱義
さあふふは箱と
あはれは月ら義
心と色はあふ
のん世推人箱
任くしはあふ
屋ららるる義
病乃ららら義
ししししし義
ししししし義
月せしは箱

宵相味口

家長味三

家祇味三

家長
家祇
三



柴屋軒宗長
湯山三吟懷
極札
二夜



了
了
青
仇



二夜

柴屋軒宗長
湯山三吟
一卷

湯山三吟
舊本



連勢師宗長
連勢百韻
一卷

連勢百韻
舊本



Handwritten text on a vertical slip of paper, mostly illegible due to fading. A small square seal is visible at the bottom.

庚寅
五
A circular seal impression is located below the characters.